

もっと知りたい

武者小路実篤

『白樺』の美術

『白樺』は文学の雑誌として紹介されることが多いですが、実は日本近代美術の歴史にも大きく関わっているのです。

*日本近代美術とは、明治・大正時代を中心とした日本での美術活動のこと。

『白樺』創刊の頃(明治43年)、日本には美術館がまだ無い……

特に西洋(ヨーロッパのこと)の芸術家や美術作品に関する情報は少しか伝わってあらず、多くの日本人は西洋美術のことをあまりよく知りませんでした。それでも知りたい人は、海外から輸入された画集を読み、複製画(レプリカのこと)を見学します。しかし、それは限られた人しか手に入れることができませんでした。

博物館には古くから日本に伝わる美術品がたくさん!



どんな色をしているのだろう?

どのくらいの大きさなんだろう?



そんな日本に雑誌『白樺』が登場!

より多くの人が手に取ることができる雑誌だからこそ、たくさんの方が西洋美術を目にしました。それは小さな写真でしたが、みんなは大喜びしました。



『白樺』第7巻第1号
大正5(1916)年1月



『白樺』第1巻第8号
明治43(1910)年11月



武者小路実篤

僕がゴッホを好きになった頃、日本では全然知られていなくて、ゴッホの絵が載っている外国の本を探すのに苦労したよ。『白樺』で紹介した後、皆がその魅力を知ってくれて嬉しかったなあ!

ロダンについては

もっと知りたい37号で紹介

ロダンとの交流

フランスの彫刻家・ロダンの誕生日を記念して発行したロダン号。雑誌の発行をきっかけに手紙のやりとりが始まり、ロダンから彫刻作品を3点も贈られるという驚きの出来事がありました。

白樺同人になる資格に「画が好きなこと」を挙げたほど、文学だけでなく美術も大好きだったんだ。『白樺』を創刊する前からロダン号を出そうと決めていたね!

『白樺』に多く載った芸術家ランキング!!

- 1位 レンブラント(オランダ) ……90回
- 2位 セザンヌ(フランス) ……80回
- 3位 ゴッホ(オランダ) ……75回
- 4位 ロダン(フランス) ……70回
- 5位 デューラー(ドイツ) ……66回

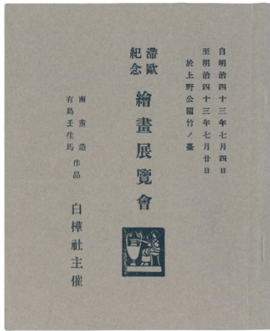
ゴッホ・セザンヌについては
もっと知りたい38・39号で紹介

『白樺』は雑誌を飛び出して、**展覧会**も開いた！

展覧会の目的 **1** **若手芸術家をサポート**

『白樺』には画家も多く集いました。絵の具を買うことすら大変な、若く貧しい画家もいたので、作品を発表できるように展覧会を開きます。外国に留学していた画家にとっては勉強の成果を披露する機会となりました。

「白樺社主催 南薫造・有島王生馬 滞欧記念 絵画展覧会」目録
明治43（1910）年7月



目録

「白樺十周年記念主催 岸田劉生作品個人展覧会」



ポスター 大正8（1919）年4月



武者小路実篤

それぞれの個性を生かきった素晴らしい作品をたくさん目にしました！

展覧会の目的 **2** **西洋美術の紹介**

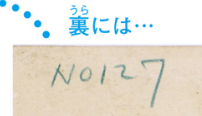
はじめの頃は白樺同人が持っている複製で展覧会を開きましたが、ロダンから贈られた彫刻や同人が集めた版画など、だんだんと、オリジナルの美術作品も展示できるようになりました。



「ハルビエー」ハンス・トーマ（ドイツ）複製版画 志賀直哉旧蔵



「ユディットとホロフェルネス」ティントレット（イタリア）複製 武者小路実篤旧蔵



第8回白樺美術展覧会に出品した時に書かれた番号

そして、誰もがいつでも西洋美術を見ることが出来る「白樺美術館」を作るという目標を立てます。寄付を集めたり、美術品を購入したり、協力者を募るなど建設にむけて動きました。

「セザンヌゴッホ画集」より 大正10（1921）年 白樺社



寄付で購入したセザンヌ「風景」（今は、白樺美術館から岡山県にある大原美術館に永久寄託）



実業家・山本願弥太の協力で手に入れたゴッホ「向日葵」（第二次世界大戦で焼失）

結局、白樺美術館は建てなかったんだ。でも今は全国に美術館があって、日本にいながら、誰もがいつでも世界の美術作品を見ることができると聞くよ。『白樺』の思いが100年以上も繋がっているとは嬉しいなあ。

白樺美術館についてはもっと知りたい37～39号で紹介

